

実在論と科学の目的 上・下

カール・R・ポパー著

小河原誠・薩山泰之・篠崎研二 訳

岩波書店/2002

[401 || P81 || 1~2]

2階書庫

大学に入り、高校以前では触れたことがない様々な知識を学ぶ機会が多くなります。そして、最初の刺激的な時間が過ぎると、次第に雑多な知識が負担に感じるときが来るかもしれません。そこをどう乗り越えるかが大学の勉強のポイントだと思うのですが、あれこれ試行錯誤して自然な世界観を作っていくしかなく感じます。私の場合は煮詰まったときによく仕事以外の本を眺めます。そのときの本は武田泰淳であったり、ヴィトゲンシュタインであ

たりで、それぞれの持ち前の言語で表現したことのないような対象を大胆な形で文に組み立てていく文章家に興味を持ちます。

ポパーにもそういう魅力を感じます。論理は非常に明瞭で、様々な説明や例示で問題を明らかにしていく流れが好きです。

『実在論と科学の目的』の「序 1956年」の中で同一歩調をとらず批判したい事柄として、1. 流行、2. 物理学の模倣、3. 専門家の権威の3つを挙げています。特に2番目についての説明を引用すると、「ある学問に数学が含まれていれば、それだけ科学があるとか、測定とか『精密さ』があれば、それだけ科学的であるとする説は、完全な誤解に基づいている。それどころか、すべての科学に対して、次のような格率が成り立つ。手もとの問題が要求している以上の正確さを目指してはならない。したがって、わたくし

には精密さに対する信仰はない。」(上巻p.9)

このことは数学教師の私にとって受け入れがたいのではと思われるかもしれませんが、数学はあくまで思考技術の一つですので、精密さに対する誤解をきちんと指摘する主張は清くしと感じます。本全体を通しポパーが展開する慎重な論を見ると、丁寧に訳された文章の恩恵でもあるのですが、科学の奥深さに触れられるような気がします。私のお薦めの本です。

老婆心からの蛇足:この大学には「ポパーに関しては一家言ある」と主張する経済学の先生やヴィトゲンシュタインの話になると熱い語り口になる哲学の先生はいます。普段やさしい先生でも信念の琴線に触れると恐ろしい学者に変わるものですから、粗相(?)がないように普段から本をたくさん読んでください。(もっとも学生は怒られてなんぼなんですけどね。)



◆「ハケン切り」はなぜ起きるの？

経済の恐怖

一雇用の消滅と人間の尊厳

ヴィヴィアンヌ・フォレストル著

丸山学芸図書/1998

※未所蔵ですが、他の図書館から借りることができます。

この本は、雇用は人間の尊厳を守るための最低条件であるから、人間をモノのように切り捨てる、市場を優先する経済は非人間的であることを告発した、フランスの作家の本である。『ターボ資本主義—市場経済の光と闇』(エドワード・ルトワク著、阪急コミュニケーションズ/1999 [332.06 || L97] 2階書庫)と並んで自由市場経済の本質を知るための必読書。

◆経済成長って大事なの？

経済成長がなければ私たちは豊かになれないのだろうか

ダグラス・ラミス著

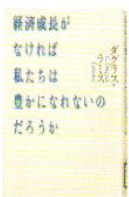
平凡社/2000

[304 || L96]

2階書庫

※平凡社ライブラリー版(2004)も所蔵

この本は、「モノをたくさん作らない低成長だから不景気である」という常識がいかになわたしたちの生活と経済を悪化させてきたか、広い観点から明らかにしている。類書に『経済成長神話から



の脱却』(クライヴ・ハミルトン著、アスペクト/2004 [331.19 || H26] 第2開架閲覧室)がある。

◆地球温暖化の本当の原因は何？

科学者の9割は「地球温暖化」CO²犯人説はウソだと知っている

丸山茂徳著

宝島社/2008(宝島社新書)

[451.35 || Ma59]

第2開架閲覧室

この本は少し粗いがそのタイトルはズバリ、「温暖化問題」の本質についている。類書の『暴走する「地球温暖化」論』(武田邦彦他著、文藝春秋刊/2007 [519.5 || B66] 第2開架閲覧室)と合わせて読んで、地球温暖化問題にたいする正しいアプローチを知って欲しい。



◆なぜ金融って難しいの？

エンデの遺言—「根源からお金を問うこと」

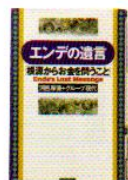
河邑厚徳・グループ現代共著

日本放送出版協会/2000

[337 || Ka95]

2階書庫

時代の大きな曲がり角では細部にこだわる専門家は役に立たない。また、表面(サブプライムローン)をなでまわしている限り、今回の金融危機の根っこに触れることはできない。ファンタジー作家エンデのこの本が役にたつ。これを卒業したら『世界を壊す金融資本主義』(ジャン・ペイルルヴァット著、NTT出版/2007 [332.06 || P48] 第2開架閲覧室)がオススメ。



◆グローバリズムも難しくない

ジャガイモのきた道

山本紀夫著

岩波書店/2008(岩波新書)

[616.8 || Y31]

文庫本コーナー

ヒトとモノのグローバル化(世界的に拡大すること)は人類全体にプラスに作用するが、カネのグローバル化はマイナスにしか作用しない。ジャガイモのグローバル化が世界の人々の生活に役立ってきたことを示すこの本と、『「モノ」の世界史』(宮崎正勝著、原書房/2002 [204 || Mi88] 第2開架閲覧室)と一緒に読んで、そのことを知って欲しい。

